



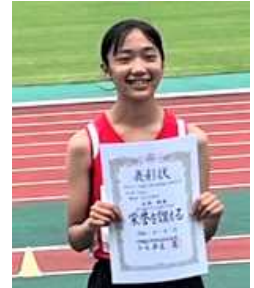
【教育目標】 **総合目標** 知性を磨き、心を見つめ、チャレンジする生徒

# イラハッピー

- ◎自主性、創造性のある生徒(知育)
- ◎情操豊かな生徒(徳育)
- ◎健康でたくましい生徒(体育)

## 【県夏季陸上(先行開催)】～九州大会を目指し自己記録に挑戦!～

7月1日(土)・2日(日)の2日間、タピック県総ひやごんスタジアムにおいて、第43回沖縄県中学校夏季陸上競技大会が開催されました。本校からは、陸上部と男子バスケットボール部から8種目に8名の選手が出場し3名の入賞がありました。共通女子800mで1位となった佐取明奈さんは、8月に沖縄で開催される九州中学校陸上競技大会への出場権を獲得しました。九州大会での健闘を祈ります!



### 【結果一覧】

	学年	種目	予・決	選手名	記録	入賞
男	2年	100m	予選	東盛 一翔	13秒23	
	3年	100m	予選	宮里 和明	12秒59	
	共通	800m	予選	上田 陸月	2分22秒33	
子	共通	走高跳	決勝	外間 琉衣都	1m45	8位
	共通	棒高跳	決勝	大城 荘典	2m20	3位
女子	1年	100m	予選	柳田 紗南	15秒07	
	3年	800m	決勝	佐取 明奈	2分26秒96	1位
	共通	1500m	決勝	仲村 莉依	5分44秒60	

## 【一人一研究授業④】～本村瞳教諭が3年12組で自立活動の授業～

7月5日(水)の5校時に、3年12組(言語学級)において本村瞳先生の「自立活動」の公開授業がありました。言語学級は通常、生徒一人、教師一人のマンツーマンの授業ですが、当日は10名近くの先生方の参観がありにぎやかな授業となりました。授業は、「(面接官の立場で)評価するポイントを意識して相手を選ぼう」という「めあて」で、受験を意識した面接についての内容でした。はじめに瞳先生が面接官になり、生徒に3つの質問をし、その受け答えに対する評価をしました。その後、生徒が面接官になり、3名の教師(受験生役)の面接を行い評価する活動を通して、面接官の立場で評価のポイントについて考えました。今後、今日の学習を活かして、面接で重視されるポイントを意識して自分の言葉でしっかりと受け答えができるようになって欲しいです。



## 【少年の主張大会】～日頃の体験を通して考えたことを堂々と発表！～

7月7日（金）に豊見城市立中央公民館大ホールにおいて、第40回豊見城市「少年の主張大会」が開催されました。市内3中学校から2名ずつ計6名の生徒が出場し日頃の体験などを通して考えていることを発表しました。本校からは3年生の村本葵さんと、仲村莉依さんの2名が出場し、落ち着いて堂々と発表することができました。結果は後日発表ということですが、最優秀賞2名が島尻地区大会に推薦されます。楽しみです。2人の発表内容の概要を紹介します。

### 「本当の努力」 3年 仲村 莉依

私は陸上部に所属していて、中長距離を得意種目としています。1年生の頃から様々な大会に出場する機会があり、「大会に出られるのは当たり前、今回も入賞できればいいや。」と、特に目標もなくいつも軽い気持ちで大会に参加していました。

そんな中、ある大きな大会でゴール直前に何人もの選手に追い抜かれるということがありました。応援の声も聞こえないくらい体力は限界で、足も重く、ゴールが遠ざかっていくような気がして、とても苦しかったことを今でも覚えています。

私は、この経験をきっかけに陸上競技に対する思いや考え方が変わり、自分のフォームを見直すようになりました。そして、どうすれば速く走れるのか、どうすれば負けない走りをするのできるのかということを考えていたときに、「努力は必ず報われる。もし報われない努力があるのなら、それはまだ努力とは呼べない。」という言葉に出会いました。それから私は、努力したつもりであっても、結果に表れないのなら、努力と言うにはまだ早いかもしれない考えるようになりました。努力とは大きな目標に向かっていくことではなく、小さな事を達成していき、一歩ずつステップアップしていくものだと考えました。

私は、陸上競技に出会ってから、努力すること、何かに一生懸命に取り組むことはカッコいいと考えるようになりました。努力し続けることは簡単なことではありませんが、自分の限界を突破したときに、とてつもない達成感を得ることができます。日々の練習の中できついと思うこともたくさんありますが、きつくても我慢すること、「我慢、我慢」と踏ん張らなければいけません。私は、これからもコツコツと地道な努力を続け、毎日走り続けます。自分の取り組んできたことが「本物の努力」と言えるその日まで。

### 「強い気持ちで伝える」 3年 村本 葵

みなさんは、日常生活で困っていることはありませんか。困ったときに誰かに「助けて」と伝えることはできますか。私は生まれつきの病気のため低身長で下肢にしびれや痛みがやすいです。そのため、生活する上では、どうしても周囲の助けが必要になります。

学校生活では、上ることのできない所にあるカギ置き場や清掃用具など、手の届かないものが案外多く存在します。学校以外の普段の生活でも同じことが言えます。スーパーやコンビニで欲しい商品が高い場所にあるときは店員さんを選んで品物を取ってもらいます。でも、回数が増えてくると申し訳なく思い、声をかけづらくなってしまいます。また、荷物を持つての長距離・長時間の歩行には限界があります。でも、義務教育修了の学年になり、自分の思いをしっかりと表現できなければいけないと考えるようになりました。そして、私のような手助けを必要としている中学生がいて、たくさんやりたいことがあることを知って欲しいのです。

これまで「うらやましい」「できたらいいな」と憧れることがたくさんありました。その気持ちは私にやる気を起こさせてくれます。友達と同じ目線で同じものを見たらどんな気持ちだろうと思うこともあります。でも、友達は私の目線で物事を捉えることはできません。私だから気付けることも多くあるのです。そう思うと、少し自信を持っていいんだと自分に言い聞かせます。

将来は、管制塔で仕事をしたいです。空の一番近くで大空高く飛ぶ飛行機を毎日見ていたいのです。叶うかどうかは分かりませんが、低身長で重い荷物には手こずる私でも大きな夢があります。夢を叶えるために「困ってるので助けてください。」と堂々と言おうと思います。もし、私と同じ気持ちでいる中学生がいれば、一緒に「お願い」と強い気持ちで伝えてみませんか。

